



2020年11月某日

差枚

+1712枚

RANK

A

実戦機種

SLOTバジリスク～甲賀忍法帖～Ⅲ、バーサス、パチスロ交響詩篇エウレカセブン3 HI-EVOLUTION ZERO

実戦レポート

今回は差枚数こそ+45枚と薄氷のプラスだったものの、内容的にも気分的にも全く満足できていないどころか、ほぼ負けたようなものである。つまり、このままだと11月度の実戦は全敗で終えかねない、そんな不名誉な記録がかかった終盤戦。入場抽選で引いた数字は「30番」。決して良い番号とは言えないが、それでも何とかしなければならない。いや、立ち回り次第では何とかできるはずだ。全台系の候補機種は早めに埋まってしまうだろうから、序盤から狙えるとすれば、やはり特定末尾。過去数回の当り数字の傾向、全台系になりやすそうな機種、高設定を入れても全体への影響が小さそうな機種、逆に高設定が入らなそうな機種、それらの位置を総合的に検討して、今回の当りになりそうな末尾は...これだ！

そんな熟考の末に選んだ「SLOTバジリスク～甲賀忍法帖～Ⅲ」が、早々と周期を連続スルー+弱チェも全く出ないと来たもんで、さあ困った。あれだけじっくり選んだ答えが間違っていると言われては、もはや何を打ったら良いか全く分からない。分からな過ぎて、フラッと目に入ったバーサスを打ったらすぐにボーナスがポンポンと引けて、バジリスクⅢの負債を若干取り戻したものの、これも打ち続けるほどの材料は発見できず、持ちメダルがあるうちにヤメ。

こうなると、変に考えすぎるよりも目で見たとの信じて、とにかく現場の情報収集に徹して全台系・特定末尾をなるべく早く見つける、というのが最善策だと思う。現にオレもそうしたのだけど、これがまた絶妙に分かりにくい状況で、ざっと見まわして良さそうな台はあるものの、同一機種や同一末尾を調べても「うーん、違うかあ」となってしまう。最新台の「パチスロ モンスターハンター:ワールドTM」がどんな出方をするのか情報が少なく、フル稼働ながら出玉はパツとしない現状でも「あそこが全台系かも？」と誰もが疑念を拭えないことが、他の機種を攻めようという気を若干ながら削いでいるのかもしれない。

そんな中で、序盤からずっと気になっていたのが「パチスロ交響詩篇エウレカセブン3 HI-EVOLUTION ZERO」。1台明らかに良さそうな台があり、それに引き寄せられて他の台もそこそこ動くのだけど、ちょっと打たれては空き台になる、の繰り返し。だがそこまで設定が分かりやすい機種ではないし、まだ可能性があるのでは...？ ということで打ち始めると、周期での当選は安定して2～3周期をキープし、ATレベルの上がり方も上々。確定要素こそ出ないものの、これは...貰ったか!? ここぞというタイミングで引いたATレベル4を期待通りにそこそこ伸ばせた後も、初当りのペースは衰えず、終わってみればスランプグラフは完全に高設定のソレ。うん、A級で良いでしょう！ 久しぶりに勝ったわ。